

【東京ビエンナーレ2025開催まであと1か月！】

東京の街そのものが展示会場に？ 歩くたびに新しい東京が見える

 多彩なおすすめ6コースを初公開！
9月17日より前売券発売開始！


本プレスリリースのポイント

- おすすめコース6選紹介・プロジェクト、展示紹介(p3-7)
- 東京ビエンナーレに深くダイブするーイベント紹介 (p8-9)
- 開催概要 (p10)
- 鑑賞チケット / 会期・開場時間・休場日 (p11)
- さんぽお助けアイテムーアートさんぽマップ、デジタルマップ(p12)
- サウンドメディアにもご注目ください! (p12)

多彩な6エリアと、おすすめ6コースを紹介！

2025年10月17日（金）からいよいよ「東京ビエンナーレ2025」が開幕します。「いっしょに散歩しませんか？」をテーマに、東京の地場に発する国際芸術祭が12月14日（日）までの約2か月間にわたって開催されます。アーティストは、「Social Dive」プロジェクトにエルケ・ラインフーバー（ドイツ）の参加が決定し、8か国・39組になりました。「歩くなかで発見すること」をテーマにした芸術祭に、これら見応えあるアーティストが作品を展開します。

作品は東叡山 寛永寺、エトワール海渡リビング館の2つの拠点会場のほか、6つのエリアに計12会場およびまちなか31か所に展示されます。開催を1か月後に控え、[公式ウェブサイト](#)では展示内容が公開されました。ここでは、これらを堪能するおすすめのコースをご紹介します。

◆江戸の歴史をめぐる、アートをめぐる

【上野・御徒町エリア】

2つの拠点会場のひとつ、東叡山 寛永寺（一部有料）と諸堂を中心に、歴史を感じながらアートを楽しむ

◆街並みとアートで、時間と異文化への旅を

【神田・秋葉原エリア】

まちの賑わいを育んできた個人商店、流れた時間を感じる

◆東京ドームシティでアートを発見

【水道橋エリア】

東京ドームシティという大型施設で非日常のアートに出会う

◆路地のスキマに、あ、ここにもアート

【日本橋・馬喰町エリア】

日本橋に今も残る路地のスキマプロジェクトと、拠点会場のひとつエトワール海渡リビング館（有料）でアート作品にダイブ

◆雑踏の中で、立ち止まる、気づく

【八重洲・京橋エリア】

京橋彩区（アーティゾン美術館/TODA BUILDING）周辺で耳をすまし、東京駅八重洲北口 東京大丸店前で歩みを止め、足元の巨大な作品を見る

◆変化するビジネス街、変化し続けるアート

【大手町・丸の内・有楽町エリア】

旅行者と通勤・通学とさまざまな人が行き交うなかで、作品がもたらす非日常を味わう



2つの拠点会場が楽しめるお得な前売券発売！

創建400年 東叡山 寛永寺と、馬喰町老舗問屋エトワール海渡リビング館の6フロアの2つの展示をお得に鑑賞できる前売券（共通チケット 一般 2,500円／学生1,500円※）を9月17日より発売開始します。

東叡山 寛永寺の一部と、他のエリアの展示は無料でお楽しみいただけます。おすすめコースをご家族やご友人で楽しむもよし、“自分だけのルート”で楽しむもよし、ぜひこの秋、あなただけの発見さんぽをお楽しみください。

※[Artsticker](#)と[JRE MALL](#)にて購入可能です。

詳細は、p11、公式ウェブサイトをご覧ください。<https://tokyobiennale.jp/tb2025/tickets/>

おすすめさんぽコース6選

※所要時間は目安であり、鑑賞時間含め個人差があります。
適宜休憩をとりながら散歩をお楽しみください

おすすめコース1 【上野～神田～馬喰町】 所要時間（鑑賞含め5時間程） [ルートマップ](#)
東京ビエンナーレを凝縮！拠点をつなぐダイジェストさんぽ

寛永寺の根本中堂から始まる散歩コースは、歴史的建築と現代アートが響き合う特別な時間を体験できます。鈴木昭男の《点 音（おとだて）》や黒川岳《石を聴く》はいずれもその場でしか感じられない「音」がテーマとなる作品です。貴賓室、葵の間など普段は目にしない空間が舞台となり、歩みを進めるごとにアートが姿を現します。

「Tokyo Perspective」は、アーティストの“視線”を共有する写真プロジェクト。この上野エリアでは片山真理、SIDE CORE、豊嶋康子の撮影場所で彼らの目に映ったものをぜひ体験してください。

*は撮影場所。実際の作品はエトワール海渡リビング館で展示されています。

[1] 東叡山 寛永寺 根本中堂周辺

渋沢家霊堂前庭（有料）
貴賓室（有料）
葵の間廊下（有料）

↓ 徒歩 10分

[B] 開山堂両大師

↓ 徒歩 5分

[C] Tokyo Perspective_東博と都美館の間(*) 片山真理

↓ 徒歩 5分

[D] 不忍池辯天堂

↓ 徒歩 10分

[E] PARCO_上野 周辺

↓ 徒歩 15分

[F] Tokyo Perspective _INVISIBLE PEOPLE (*)

↓ 徒歩 13分

[G] Tokyo Perspective_元3331 (*)

↓ 徒歩 25分

[H] 看板建築 神谷氷店

↓ 徒歩 5分

[I] 看板建築 旧角地梱包

↓ 徒歩 7分

[J] 看板建築 海老原商店

↓ 徒歩 15分

足を伸ばせば

[15] エトワール海渡リビング館（有料）

鈴木昭男
森淳一
藤原信幸
小瀬村真美
黒川岳

鈴木昭男

鈴木昭男

SIDE CORE

黒川岳

秋山珠里

テントハウス・アートコレクティブ & オープンネットワーク



東叡山 寛永寺
黒川岳《石を聴く》
2022年 photo:鈴木陽介



撮影中の片山真理
(Tokyo Perspective)

拠点会場「東叡山 寛永寺」の見どころ（一部有料）

江戸時代に創建され、2025年に400周年を迎える東叡山 寛永寺。寛永寺根本中堂に加え、上野公園内の清水観音堂、開山堂両大師、不忍池辯天堂の諸堂が東京ビエンナーレ2025の会場です。特に今年は、普段入ることができない貴賓室や葵の間廊下、渋沢家霊堂前庭（いずれも有料）で、藤原信幸、小瀬村真美、森淳一がサイトスペシフィックな展示を行います。「葵の間」は幕末の将軍・徳川慶喜公が謹慎生活を送った場所。慶喜の描いた《西洋風景》（1887-97）にちなんだ小瀬村の新作は見どころのひとつです。



【参考作品】藤原信幸
《種子のかたち(小文間の植物シリーズ)》, 2015

おすすめコース2 【馬喰町～日本橋】 所要時間（鑑賞含め3時間半程） [ルートマップ](#)
路地のスキマに、「あ、ここにもアート！」を発見するさんぽ

馬喰町のエトワール海渡りビング館から始まるさんぽコースは、商都・日本橋の歴史と現代アートが交わる道のりです。エトワール海渡りビング館（有料）では、6つのフロアでたっぷり作品を鑑賞し、その後写真プロジェクト「Tokyo Perspective」の豊嶋康子が撮影した戦後美術を支えた画廊跡をめぐり、さらに鈴木理策が東京の風景に向けたまなざしを共有します。その後は日本橋の路地裏を散策しながら「スキマプロジェクト／日本橋室町・本町」を体験。路地裏の鉢植えに「擬態」しながら、都市の隙間に作品を潜り込ませている多様な作家たちの彫刻を見つけてみましょう。

[A] エトワール海渡りビング館（有料） ※6フロアに展開するアーティストの詳細はp7へ

📍 徒歩 5分

[B~E] Tokyo Perspective(*)

旧・ギャラリーαM 豊嶋康子

旧・秋山画廊 豊嶋康子

旧・田村画廊 豊嶋康子

旧・真木・田村画廊 豊嶋康子

📍 徒歩 15分

[F] Tokyo Perspective_日本橋室町・東を望む(*) 鈴木理策

[G] Tokyo Perspective_日本橋・北を望む(*) 鈴木理策

📍 徒歩 3分

[H] スキマプロジェクト／日本橋室町・本町



*は写真プロジェクト「Tokyo Perspective」の撮影場所です。実際の作品はエトワール海渡りビング館でご覧いただけます。

スキマプロジェクト／日本橋室町・本町

都市の構造を物理的、観念的な「スキマ」からとらえ、ビルの中のわずかな隙間（すきま）を作品発表の空間や作品そのものとして活用する試み。1999年に中村政人とコマンドNが実施した伝説的なプロジェクトで、今回は路地裏の鉢植えの隙間を縫うように、アーティスト9組の彫刻作品が鉢植えに「擬態」しながら、まちのスキマ空間を豊かに彩ります。

参加アーティスト：岩岡純子、片岡純也＋岩竹理恵、栗原良彰、6lines studio＋塚本由晴、鈴木真悟、寺内木香、戸田祥子、ミルク倉庫ザコナッツ、森靖



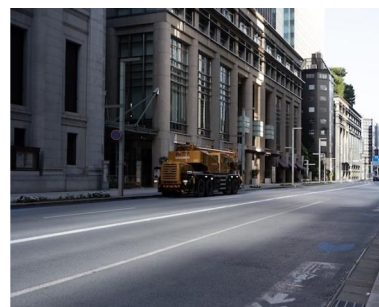
左：片岡純也＋岩竹理恵《回る枝》仮称,2025年
右：ミルク倉庫ザコナッツ
萬葉草薺 (Plantation) シリーズ 構想イメージ[CG]

写真プロジェクト「Tokyo Perspective」

アーティストが東京を歩き、「まちの今」を写真作品化。そのオリジナルプリントを特設会場で展示するほか、ネット上のデジタルマップでも公開し、人々が撮影地点を訪れて実際の風景と対峙できるプロジェクトです。さらに、セブンイレブン各店舗のマルチコピー機で手軽にプリントできる仕組みも用意し、新しい写真鑑賞やコレクションの楽しみ方を探ります。

【注】おすすめさんぽコースの*は撮影場所。実際の作品はエトワール海渡りビング館に展示されています。両方をぜひお楽しみください。

参加アーティスト：片山真理、SIDE CORE、鈴木理策、豊嶋康子、中村政人、畠山直哉、港千尋



鈴木理策《日本橋室町・東を望む》2025年

おすすめコース3 【大手町～神田～秋葉原】 所要時間（鑑賞含め3時間半程） [ルートマップ](#) 大都会のビジネス街から下町へ、都市の記憶をたどるさんば

東京駅丸の内口の行幸地下ギャラリーから始まるコースは、佐藤直樹が10年以上描きつなげてきた木炭画とその公開制作、大内風がビル壁面に描き出す大型絵画を経て、神田の優美堂のカフェで一休み。ここでは地域の記憶と中村政人の視線が交差します。さらに神田明神で鈴木昭男の作品《点音（おとだて）》を体験し、茶の湯の「野点（のだて）」のように、耳を澄まして感覚を開いてみましょう。万世橋では港千尋、元3331で豊嶋康子と、彼らに見出された都市の風景を味わいます。

[A] 行幸地下ギャラリー

📍 徒歩 12分

佐藤直樹

[B] 大手町パークビル1Fエントランス

※公開制作（毎週水曜日12:00-16:00）

詳細はウェブサイトにてご確認ください

佐藤直樹

[C] 大手町ファーストスクエア

📍 徒歩 30分

大内風

[D] 優美堂

Tokyo Perspective_優美堂(*)

📍 徒歩 15分

[E] Tokyo Perspective_聖橋(*) 港千尋

📍 徒歩 15分

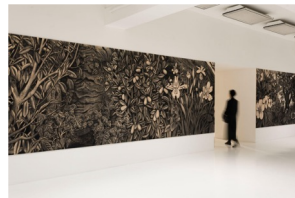
[F] Tokyo Perspective_万世橋(*) 港千尋

📍 徒歩 12分

[G] 神田明神 鈴木昭男

📍 徒歩 15分

[H] Tokyo Perspective_元3331(*) 豊嶋康子



行幸地下ギャラリー
佐藤直樹【参考作品】
個展「秘境の東京、そこで生えている」
2017年



「点音（おとだて）」

サウンドアーティストの鈴木昭男が代表的プロジェクト「点音（おとだて）」を実施。茶の湯の「野点（のだて）」のように、屋外で耳を澄まして感覚を開くポイントを選出します。

*「点音（おとだて）」は複数のエリアで展開します。右のマークにご注目！



おすすめコース4 【水道橋～本郷】 所要時間（鑑賞含め1時間半程） [ルートマップ](#) 巨大なアートと日常の街並みが交差する、対比を味わうさんば

東京ドームシティ周辺から文京区西片、本郷エリアまでを巡る散歩コースです。東京ドームシティでは全長122mのスーパーリボンビジョンに映し出された村山悟郎の作品、Hogaleeの3人の女性の巨大な壁画作品に出会い都市のスケール感を体感。さらに歩けば写真プロジェクト「Tokyo Perspective」で畠山直哉が東京をとらえた撮影地点が複数あり、街路や建物の間に潜む美や都市の表情を発見できます。非日常のアートと日常のまちの風景の対比を楽しむさんばです。

[A] 東京ドームシティ

📍 徒歩 2分

村山悟郎

[B] 東京ドームシティ

📍 徒歩 14分

Hogalee

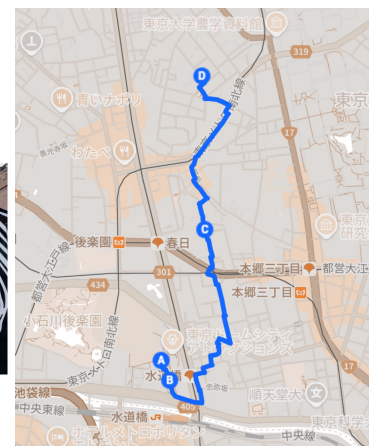
[C] Tokyo Perspective_文京区西片(*) 畠山直哉

📍 徒歩 13分

[D] Tokyo Perspective_本郷4丁目辺り(*) 畠山直哉



東京ドームシティ
Hogalee 《Re-sortir / リ・ソルティール》
2024年撮影：池ノ谷侑花（ゆかい）



*は写真プロジェクト「Tokyo Perspective」の撮影場所です。実際の作品はエトワール海渡りリビング館でご覧いただけます。

おすすめコース5【神保町～馬喰町】所要時間（鑑賞含め4時間程）[ルートマップ](#) 看板建築と大小の橋をめぐり、まちの記憶をたどるさんば

神保町から馬喰町までを巡りながら、中村政人や港千尋の撮影ポイントをたどり、街角に潜む美や視点の変化を体感できます。神谷氷店や旧角地梱包、海老原商店などの看板建築をめぐり、歴史的建物と現代アートの対比を楽しみましょう。日常の景色とアートが入り混じる街歩きはエトワール海渡リビング館（有料）。さまざまな現代アートの表現をたっぷり味わえます。

- [A] 優美堂
Tokyo Perspective_優美堂(*)
📍 徒歩 13分
- [B] Tokyo Perspective_万世橋 (*)
[C] Tokyo Perspective_聖橋 (*)
📍 徒歩 13分
- [D] 看板建築 神谷氷店
📍 徒歩 5分
- [E] 看板建築 旧角地梱包
📍 徒歩 7分
- [F] 看板建築 海老原商店
テントハウス・アートコレクティブ & オープンネットワーク
📍 徒歩 20分
- [H] エトワール海渡リビング館（有料）
※アーティストの詳細はp7へ



左から「神谷氷店」「海老原商店」「角地梱包」

海外連携プロジェクト



海外のユニークなアート組織と連携して展開するプロジェクト。第一弾として、ノルウェーのアートコレクティブ、Tenthaus（テントハウス）が神田の「海老原商店」を拠点に活動します。北欧の現代アート・ビエンナーレ「MOMENTUM（モメンタム）」などに携わる彼らが、東京という場を起点にしたアクション、ワークショップ、リサーチ等を実施。協働者たちとアイデアを持ち寄り、公共空間や「集い」をめぐるトランスローカルな視点を探ります。

おすすめコース6【東京八重洲北口～日本橋】所要時間（鑑賞含め2時間程）[ルートマップ](#) お江戸から現代東京へ、都市の変遷を歩いて感じるさんば

東京駅八重洲北口から日本橋エリアまでを巡る散歩コースです。東京駅八重洲北口 大丸東京店前の色彩豊かに広がる与那覇俊の作品を皮切りに、京橋彩区（アーティゾン美術館/TODA BUILDING）周辺の鈴木昭男の《点 音（おとだて）》を鑑賞。その後、鈴木理策の光と構図に対する鋭い観察眼によって切り取られた日本橋室町・本町の風景を体感します。都会の街並みから路地裏までを歩きながら、細部に潜む美や視覚・聴覚でまちを再発見するさんばルートです。

- [A] 東京駅八重洲北口 大丸東京店前
📍 徒歩 8分
- [B] 京橋彩区（アーティゾン美術館/TODA BUILDING）周辺
📍 徒歩 15分
- [C] Tokyo Perspective_日本橋 (*)
[D] Tokyo Perspective_日本橋室町・東を望む (*)
[E] Tokyo Perspective_日本橋・北を望む (*)
📍 徒歩 3分
- [F] スキマプロジェクト／日本橋室町・本町

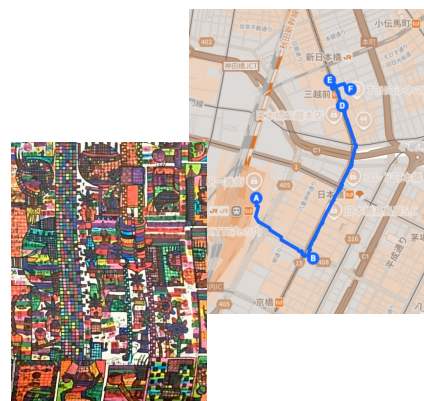
与那覇俊

鈴木昭男

鈴木理策

鈴木理策

鈴木理策



東京駅八重洲北口 大丸東京店前
与那覇俊《太太郎》2023年（部分）

*は写真プロジェクト「Tokyo Perspective」の撮影場所です。実際の作品はエトワール海渡リビング館でご覧いただけます。

拠点会場「エトワール海渡りビング館」の見どころ（有料）

東京ビエンナーレ2025では老舗問屋のエトワール海渡りビング館を拠点会場のひとつとし、建物の6フロアにわたり、今回のテーマ「いっしょに散歩しませんか？」と響き合う多彩な作品を展示。都市と人、人と人をつなぐこのテーマを、多様かつ豊かな視点から体験いただけます。なお1階では各プロジェクト情報などの掲示も行います。

L PACK、窪田望、チュオン・クエ・チー/ グエン・フォン・リン（ベトナム）、ピョトル・ブヤク（ポーランド）、渡辺英司



渡辺英司
【参考作品】《名称の庭》2014年
(箱根彫刻の森美術館)



チュオン・クエ・チー/ グエン・フォン・リン（ベトナム）
【参考作品】《Sourceless Waters: White. Shadow》2024年
(アジア・アート・ビエンナーレ2024)
Image courtesy of the National Taiwan Museum of Fine Arts

写真プロジェクト「Tokyo Perspective」

片山真理、SIDE CORE、鈴木理策、畠山直哉、豊嶋康子、中村政人、港千尋

※各アーティストの撮影場所をおすすめさんぽコースに組み込んでいます。そこで撮影された作品をエトワール海渡りビング館でご覧ください。

海外アーティスト公募プロジェクト「SOCIAL DIVE」

海外アーティストが東京のまちに飛び込み、そこで集い暮らす人びとの持つ魅力を見つめ、新しい価値を生み出すプロジェクト。参加アーティストは社会と交わりながら、まちに潜むつながりを明らかにしていきます。それは、日本に暮らす私たちにとっては思いがけない、もしくは身近すぎて気づけなかった視点かもしれません。今回は1400件以上の応募から選ばれた5組が参加します。

参加アーティスト：ナラカ・ウィジェワルダネ（スリランカ）、カミラ・スヴェンソン（ブラジル）、マリム・トヴマシアン（アルメニア）、エルケ・ラインフーバー（ドイツ）、アダム・ロイガート（スウェーデン）



アダム・ロイガート
【参考作品】《FOR THE PUBLIC -SAMPO》
2025年

日本橋・馬喰町エリアと八重洲・京橋エリアでは「考現学さんぽ」も！

日本橋・馬喰町エリアと八重洲・京橋エリア内で、考現学の視点により江戸から現代までの生活者の痕跡を読み込み、ストーリーを紡ぎます。考現学は建築学・民俗学研究者の今和次郎（1888-1973）により提唱されました。現代人の暮らしの観察、筆記、撮影等により対象を調査・分析する考現学は、後の生活学、風俗学、社会学の発展にも貢献。さらに美術家の赤瀬川原平や建築史家の藤森照信らによる「路上観察学会」の活動にも影響を与えました。今回は考現学研究の第一人者、黒石いずみ氏（福島学院大学教授）を中心に地域の人々と共に作成した考現学マップを、デジタルアートマップにて公開。まちのディテール、人の動きを観察することにより、新たなレイヤーが浮かび上がります。

考現学とは

「考古学」に対し、現在の人々の生活文化を調査・研究する学問。

※ [黒石いずみが語る「物語を感じる地図＝さんぽアートマップ」](#)

東京ビエンナーレに深くダイブするーイベント紹介

[Artsticker](#)にてイベントチケット発売中（一部は [JRE MALL](#) でも購入可能です）

東京ビエンナーレ2025のテーマ「いっしょに散歩しませんか？」のもと、まちを歩きながら楽しめる多彩なプログラムを展開しています。路地や広場、歴史ある建物にひらかれた作品や企画は、散歩するようにはめぐること出会える体験ばかりです。ここではイベントを一部ご紹介します。

看板建築プロジェクト「トーク&散歩：藤森照信さんと語る、看板建築巡り」 **さんぽ・レクチャー**

木造建築が残る神田須田町・岩本町・東神田・馬喰町界限を中心に、その街並みを巡りながら東京ビエンナーレ2025で拠点となる3箇所の木造建築の会場をまわります。冒頭では、「看板建築」の名付け親で建築史家・藤森照信さんをゲストに迎え、看板建築と呼ばれる木造建築の歴史を紐解くレクチャーを踏まえ、まちに散歩に出ていきます。

ゲストトーク：藤森照信（建築史家）

案内人：中村政人（TB2025総合プロデューサー、アーティスト）

参加料金：3,000 円

実施日：11月15日（土）[第1部] 15:00-16:00、[第2部] 16:30-18:00

実施場所：海老原商店（千代田区神田須田町2-13）



建築史家・藤森照信

さんぽ大学特別課外講義（上野～本郷～茗荷谷編） **さんぽ**

上野を出発し、本郷～茗荷谷へと歩く本ツアーでは、再開発の進む地域や記憶の上書きが進む都市空間をたどります。「観光地」として整備される東京の構造を裏側から見つめ、歩行者の視点で都市に堆積した歴史の位相を読み直します。近代化やグローバル化の中で失われつつある「さんぽ」の価値を見つめ直す、ゆるやかで批評的な都市歩行のツアーです。

案内人：吉見俊哉（さんぽ大学学長／國學院大学観光まちづくり学部教授）

参加料金：3,000 円

日程：11月28日（金）12:00～15:30（集合11:40）

集合場所：上野恩賜公園 西郷隆盛像 前（台東区上野公園内）



さんぽ大学特別フィールドワーク 吉見俊哉
「東京を裏返す方法を学ぶ」 2024年11月9日（土）の様子

さんぽ大学特別課外講義（日本橋編） **さんぽ**

日本橋から佃島まで、水の都市・東京の原風景と新たな風景を時空を超えて辿るまち歩き。町人地の面影、再生する日本橋兜町、亀島川の水辺空間、佃島・大川端の江戸湊跡まで、ダイナミックに変遷してきた東京の水辺の歴史を、陣内秀信先生の案内で巡ります。

案内人：陣内秀信（さんぽ大学副学長／法政大学名誉教授／中央区立郷土資料館館長）

参加料金：3,000 円

日程：11月18日（火）12:00～15:30（集合11:40）

集合場所：「日本橋観光案内所」前（中央区日本橋1-1-1）



さんぽ大学特別フィールドワーク 陣内秀信
「日本橋エリアを巡る」 2024年10月29日（火）の様子

東京ビエンナーレ2025のプロジェクトとしてとして2025年1月から始まった「さんぽ大学」。
詳細は、下記記事をご参照ください。

[「さんぽ大学」レポート（1） 特別講義「いっしょに散歩しませんか？」](#)

中村政人の大手町、丸の内、有楽町さんぽ **さんぽ**

本芸術祭プロデューサーでアーティストの中村政人と一緒に、丸の内仲通りのパブリックアートや東京ビエンナーレの作品を巡る散歩企画。大手町ファーストスクエアの壁面に直接描かれた大型作品や行幸地下ギャラリー、丸の内仲通りに設置された数々のアート作品を巡ります。

案内人：中村政人（TB2025総合プロデューサー、アーティスト）

参加料金：3,000円

日程：2025年11月22日（土）13:00-14:30（受付開始12:45）

集合場所：大手街ファーストスクエア（千代田区大手町1丁目5-1）

<https://maps.app.goo.gl/V97mD5exBLQqoqTF9>



過去のアート散歩イベントより
丸の内ストリートギャラリーにて

街のかたたたき **さんぽ・ワークショップ**

参加者が各々の小さな木槌を制作してまちに繰り出し、音を鳴らすワークショップ。まちを闊歩しながら目にとまったものに木槌で優しく触れ、発生する音に耳を澄まします。

参加者自らが作った道具で街中で出会うものに触れることや、その結果生じる音を聞くことの面白さ・不思議さや喜びを一緒に味わってみましょう。

木槌の制作は簡易的な作業のみを予定しており、専門的な知識・経験は要しません。制作した木槌はそのままお持ち帰りいただけます。



黒川岳（アーティスト）と
ワークショップ参加者

案内人・講師：黒川岳（アーティスト）

参加料金：1,000円

実施日：11月23日（日・祝）13:00-16:00（受付開始 12:45）

11月24日（月・振）13:00-16:00（受付開始 12:45）

会場：エトワール海渡リビング館1F イベントスペース

Sunwalks: 散歩サイアナタイプ・ワークショップ **さんぽ・ワークショップ**

東京の慌ただしいリズムから一歩離れ、まちの小さな記憶とそこを歩いた偶然を、サイアナタイプ（青写真）を使って写しとるワークショップ。出発地点からゆっくりと散歩をしながら、途中で見つけた、自分にとって意味のあるものを集め、太陽の下でオリジナルの作品をつくりましょう！

サイアナタイプは、日光と水を使って鮮やかな青色の写真を生成する初期の写真技術です。参加者は、光と時間によってさまざまなものの形が紙に刻まれる仕組みを学びます。散歩し、気づき、そして日光で刻むことで、東京の速いペースの風景を写し取りながら、その中に潜むスローな感覚を楽しめます。

案内人・講師：マリナム・トヴマシアン（Social Dive アーティスト）

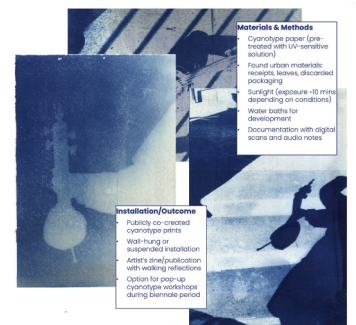
参加料金：1,000円

実施日：9月20日（土）12:00-15:00（受付開始 11:45）

9月27日（土）12:00-15:00（受付開始 11:45）

10月18日（土）12:00-15:00（受付開始 11:45）

集合場所：エトワール海渡リビング館6F



サイアナタイププリント
を使ったさんぽとワークショップ

ほかにも魅力的なイベントがさくさん！ お申込・詳細は公式ウェブサイトをご覧ください。

<https://tokyobiennale.jp/tb2025/event/>

■開催概要（2025年9月17日現在）

【名 称】（日）東京の地場に発する国際芸術祭「東京ビエンナーレ2025」
（英）Art Projects Originating in Local Areas of Tokyo
Tokyo Biennale 2025

【テーマ】（日）いっしょに散歩しませんか？
（英）Wander for wonder

【総合プロデューサー】中村政人

【キュレトリアル・メンバー】並河進、西原珉、服部浩之

【事業プロデューサー】中西忍

【会 期】2025年10月17日（金）～12月14日（日）

【会 場】拠点展示：東叡山 寛永寺、エトワール海渡リビング館

展示エリア：上野・御徒町エリア、神田・秋葉原エリア、水道橋エリア、日本橋・馬喰町エリア、
八重洲・京橋エリア、大手町・丸の内・有楽町エリア 計6エリア

【主 催】一般社団法人 東京ビエンナーレ

【後 援】千代田区、中央区、文京区、台東区、一般社団法人千代田区観光協会、一般社団法人中央区観光協会、
一般社団法人文京区観光協会、駐日アルメニア共和国大使館、デンマーク王国大使館、
ドイツ連邦共和国大使館、ノルウェー大使館、駐日ブラジル大使館、ポーランド広報文化センター

【特別助成】公益財団法人石橋財団

【助 成】アーツカウンシル東京 [東京芸術文化鑑賞サポート助成]
国際交流基金

【協 賛】三井不動産株式会社、三菱地所株式会社
株式会社 大丸松坂屋百貨店、パレスホテル東京、
富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
YKK株式会社、パークホテル東京、株式会社ワンダーパワードユー

【事業パートナー】株式会社東京ドーム

【特別協力】東叡山 寛永寺、株式会社エトワール海渡

【協 力】一般社団法人京橋彩区エリアマネジメント、NTT東日本、海老原商店、
株式会社大手町ファーストスクエア、合同会社コマンドA、東京藝術大学、
戸田建設株式会社、東日本旅客鉄道株式会社

【補助事業】令和7年度日本博2.0事業（独立行政法人日本芸術文化振興会／文化庁）
本事業は、障害の有無や、言語・文化の違いを超えて、誰もが楽しめる東京を目指す
キャンペーン「オールウェルカム TOKYO」に賛同しています。



【参加アーティスト一覧（50音順）】

[国内]

秋山珠里、岩岡純子、L PACK.、大内風、片岡純也＋岩竹理恵、片山真理、窪田望、栗原良彰、黒川岳、小瀬村真美、
SIDE CORE、佐藤直樹、6lines studio＋塚本由晴、鈴木真悟、鈴木昭男、鈴木理策、高橋和暉、寺内木香、戸田祥子、
豊島康子、中村政人、畠山直哉、藤原信幸、Hogalee、港千尋、ミルク倉庫ザココナッツ、村山悟郎、森淳一、
森靖、与那覇俊、渡辺英司

[海外]

ナラカ・ウィジェワルダネ（スリランカ）、カミラ・スヴェンソン（ブラジル）、テントハウスアートコレクティブ&オ
ープンネットワーク（ノルウェー、タイ）、マリアム・トヴマシアン（アルメニア）、チェオン・クエ・チー／グエ
ン・フォン・リン（ベトナム）、ピョトル・ブヤク（ポーランド）、エルケ・ラインフーバー（ドイツ）、アダム・ロ
イガート（スウェーデン）

詳細はこちらから

URL: <https://tokyobiennale.jp/>



TB2025 web

鑑賞チケット 9月17日より、[Artsticker](#)と[JRE MALL](#)にて発売

下記の拠点展示会場での鑑賞にはチケットのご購入が必要です。

ただし高校生以下の方々は、これらの会場も無料でご覧いただけます。

詳細はウェブサイトをご覧ください。 <https://tokyobiennale.jp/tb2025/tickets/>

前売券（9月17日～10月16日）	一般	学生	高校生以下
2会場共通チケット （エトワール海渡りビング館、東叡山 寛永寺*）	2,500円	1,500円	無料
会期中販売券**（10月17日～12月14日）	一般	学生	高校生以下
2会場共通チケット （エトワール海渡りビング館、東叡山 寛永寺）	3,000円	1,800円	無料
会場別チケット エトワール海渡りビング館	2,200円	1,500円	
会場別チケット 東叡山 寛永寺	1,200円	500円	

*上記2会場以外は無料で鑑賞いただけます。

また、東叡山 寛永寺も根本中堂周辺、開山堂両大師、不忍池辨天堂は無料でご覧いただけます。

**会期中販売券はいずれもオンライン購入で100円引きとなります。

※障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名までは観覧無料となります。当日、会場のチケット売り場で手帳をご提示ください。

※学生、高校生以下の場合、会場にて学生証等を提示していただく場合があります。

会期・開場時間・休場日

会期 2025年10月17日（金）～12月14日（日）

開場時間・休場日

エトワール海渡りビング館

開場時間：水木土日 11:30～18:00（入場17:00まで）

金 11:30～19:00（入場18:30まで）

休場日：月火（祝日開場予定）

東叡山寛永寺

[有料エリア] 渋沢家霊堂前庭、葵の間廊下、貴賓室

開場時間：水木金土日 11:30～16:30（入場16:00まで）

休場日：月火（祝日開場予定）

[無料エリア] 根本中堂周辺、開山堂両大師、不忍池辨天堂

開場時間：9:00～17:00

休場日：無し

神田・秋葉原エリア

看板建築：海老原商店、角地梱包、神谷氷店

開場時間：木金土日 11:30～16:30（入場16:00まで）

休場日：月火水（祝日開場予定）

本プレスリリースの[関連画像はこちらからダウンロード](#)してください。

「いっしょに散歩しませんか？」 お助けアイテム

アートさんぽマップ

東京ビエンナーレ2025のテーマ「いっしょに散歩しませんか？」を楽しむために、特製の **アートさんぽマップ** をご用意しました。高橋和暉さんによる親しみやすいイラスト入りで、会場の場所や開場時間、見どころがひと目でわかります。マップを片手に歩けば、まちとアートをめぐる散歩がもっと自由に、もっと発見に満ちたものになるでしょう。

※マップは東叡山 寛永寺、エトワール海渡リビング館ほかで配布予定。
詳細は公式ウェブサイト参照。



イラスト：高橋和暉

デジタルマップ

東京ビエンナーレ開幕時にはスマートフォンやタブレットから気軽にアクセスできる **デジタルマップ** も登場。現在地から近い展示会場をすぐに確認でき、作品やアーティスト情報にもリンクしているので、歩きながら次の目的地を探すのに便利です。近くのギャラリーや文化施設なども掲載。紙の「アートさんぽマップ」とあわせて使えば、散歩がさらにスムーズに、そして楽しく広がります。

※公式ウェブサイトにて近日公開。

オウンドメディアにもご注目ください！

ウェブマガジン『東京ビエンナーレNotes on Note』

現在進行形の芸術祭の活動をお伝えしていくとともに、アートに関連する「まち」「コミュニティ」「地域」「社会」「暮らし」について、多様なジャンルで活躍するゲストとの対談やインタビュー記事、活動に対する批評などを掲載しています。



TB2025 Note

[最近の記事から]

[東京ビエンナーレ2025の歩きかた](#)

[ボランティアから見る、もうひとつの芸術祭](#)

[鈴木昭男インタビュー：耳で都市を感じる「点音（おとだて）」](#)

[近日公開]アート鼎談「アート都市・東京の現在地とこれから」

（片岡真実（森美術館館長）、東谷彰子（タイムアウト東京 副代表）、中村政人（東京ビエンナーレ2025総合プロデューサー）

東京ビエンナーレ2025 ウェブサイト/ ソーシャルメディア

東京ビエンナーレ2025公式ウェブサイトには、アーティストの紹介、さんぽをはじめとした会期中のイベント、**新たに各展示の概要が公開されました**。Instagram、Facebook、Xとともに開催に向けた最新情報に加え、プログラムや展示内容も詳細が決まり次第、順次ご案内してまいります。本芸術祭が少しずつ姿を現していきますので、ご注目ください。

URL: <https://tokyobiennale.jp/tb2025/>



TB2025 web

「これもアート?!発見隊」 「東京ビエンナーレタイムス (TB Times) on SNS

「これもアート?! 発見隊」：まちを歩いている時に発見した、アート?!な風景、物を誰もが発信！

ハッシュタグ「**#これもアート発見隊**」を付けてぜひご参加ください

「東京ビエンナーレタイムス (TB Times)」：事務局スタッフによる日々の活動を紹介します。

【このプレスリリースのお問合せ】東京ビエンナーレ事務局（一般社団法人東京ビエンナーレ）

東京都千代田区東神田1丁目13-3 商品部ビル5階

電話：03-5809-1653 メール：[pr\(*\)tokyobiennale.jp](mailto:pr(*)tokyobiennale.jp) (※):@に変更（担当：野瀬、根本）